

北海道港湾空港建設協会

会報

平成31年 1 月

北のみなと

No.96

平成30年 7 月撮影「写真提供：稚内開発建設部」



— 目 次 —

新春のご挨拶（北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹）…………… 1

Report

港関係団体と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催 …… 2

日本港湾空港建設協会連合会と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催 … 5

港関係団体連絡会と北海道開発局担当者が意見交換会を開催 … 8

受賞

北海道水産林務部 平成30年度 水産土木工事等優秀業者表彰
「福津組、酒井建設、菅原組、小針土建」…………… 9

各種記事

平成30年度 小樽港大規模地震・津波総合防災訓練を開催 …… 10

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」の開催 …… 11

災害発生時、広域防災フロートを迅速かつ円滑に派遣！ …… 12

我が社の安全衛生管理
（ハラダ工業㈱ 安全管理室長 遠藤 重也）…………… 14

工事現場紹介「バージアンローダ船を用いた浚渫工事の施工について」
（東亜建設工業㈱ 北海道支店 釧路西港作業所）…………… 16

私の趣味「雑感2018」
（渡辺建設工業㈱ 渡部 仁志）…………… 18

稚内港末広地区クルーズ船等対応施設について …… 21

釧路港国際物流ターミナル完成式開催 …… 22

函館港若松地区クルーズ船岸壁暫定供用開始 …… 24

Topics

イベント
稚内港湾事務所工事安全連絡協議会が「女性チームによる現場点検」を実施 … 25
第8回苫小牧漁港ホッキまつり …… 26

大型客船等寄港
豪華客船「飛鳥II」苫小牧港寄港 …… 27
大型客船「MSCスプレンドイダ」が室蘭港に寄港 …… 28

Information

業界だより …… 29
広報委員会だより …… 29



第4種漁港 抜海漁港

抜海漁港は、「利尻礼文サロベツ国立公園」に囲まれた美しい自然環境の中、稚内市の中心から南西約15キロメートルの位置にあります。また、沿岸を北上する対馬暖流の影響により流水にも閉ざされることのない不凍港として貴重な存在です。

抜海漁港で水揚げされる主な魚種は、水揚げ量では、サケ、ホッキ、ナマコ、カレイ、タコなどとなっており、サケが全体の約半数を占めています。

また、水揚げ金額では、ナマコ、サケ、コンブ、カレイ、ホッキとなっており、ナマコが全体の約4割を占めています。

抜海漁港では、漁獲量確保に向けて、サケやヒラメの稚魚を放流したり、ナマコやホッキの漁獲制限を行っています。また、蓄養施設を利用してヒラメやホッキを出荷調整し、水産物の安定供給を進めています。

新春のご挨拶



北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹

平成31年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

政府は、平成31年度予算で、一人ひとりの人材の質を高める「人づくり革命」と成長戦略の核となる「生産性革命」に最優先で取り組むこととしております。我々、建設業においても、週休2日等の休日の確保の実現、建設現場における生産性の向上を図っていくことが必要となっております。

国土交通省港湾局は、基本方針として、「被災地の復旧・復興」「力強く持続的な経済成長の実現」「国民の安全・安心の確保」「豊かで暮らしの礎となる地域づくり」の4分野の取り組みを強力に推進することとしており、これらの港湾関係予算が確実に確保されることが、我が国の成長力を高め、持続的発展を確保するために必要不可欠であると考えております。

北海道は、耕地面積が日本の4分の1を占めているほか、日本一の水揚げを誇るなど日本を代表する食料供給基地となっており、北海道の港湾、漁港が農水産品物流

の拠点として貢献しております。

また、豊かな自然環境、高品質の農水産物などの観光資源が多く存在していることから、政府目標の訪日クルーズ旅客数500万人の達成に向けてその役割を果たすことが期待されております。さらには、地域経済を支える地方の港湾の整備、老朽化対策の推進も求められております。

また、北海道のインバウンド観光の振興に対応した機能の強化、国内外の航空ネットワークの強化を図るため、空港施設の更新、改良を推進することが必要と考えております。

当協会といたしましては、これらの港湾、漁港、空港の整備及び機能強化は、豊かで暮らしの礎となる地域づくりのために極めて重要であることを訴えてまいります。

港湾空港関係建設業界は、社会資本整備の担い手として、また、社会の安全・安心の確保の担い手として期待されており、その役割は益々重要なものとなっております。本年も、会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら諸課題に取り組んでまいり所存であります。

会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いするとともに、新しい年が皆様にとりまして、希望に満ちた発展の年になりますことを心より祈念いたします。

港関係団体と当協会が 北海道開発局と意見交換会を開催

平成30年12月7日（金）ホテルポールスター札幌において港関係団体と当協会の共催で「平成30年度港湾・空港・漁港事業に係わる意見交換会」を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



宮崎会長



北海道開発局・港関係団体

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長	眞 田 仁
港湾計画課長	松 良 精 三
港湾計画課港湾企画官	白 熊 良 平
港湾計画課長補佐	古 屋 武 志
港湾建設課長	平 澤 充 成
港湾建設課長補佐	田 川 人 士
港湾建設課建設第2係長	森 昌 也
港湾行政課長	根 本 任 宏
空港・防災課長	北 原 政 宏
空港・防災課港湾保安管理官	斉 藤 敦 志
空港・防災課長補佐	日 色 徳 彦
農業水産部水産課長	田 中 郁 也
農業水産部水産課水産企画官	星 道 太
農業水産部水産課長補佐	伊 藤 徹 也

◎港関係団体

○北海道港湾空港建設協会	
会長	宮 崎 英 樹
技術委員会副委員長	宮 本 義 憲
○(一社)北海道建設業協会	
港湾・漁港部会長	藤 田 幸 洋
副部会長	百 瀬 治
○(一社)全日本漁港建設協会	
北海道支部長	西 村 幸 浩
副支部長	堀 松 一 郎
○(一社)日本埋立浚渫協会	
北海道副支部長	櫻 井 克 之
技術委員長	鈴 木 定 義
○(一社)日本海上起重技術協会	
北海道支部長	宮 崎 英 樹
○全国浚渫業協会	
北海道支部長	藤 田 幸 洋
○(一社)日本潜水協会	
北海道支部長	堀 松 宏 朗
○港関係団体連絡会	
会長	岡 崎 光 信

北海道港湾空港建設協会 要 望 事 項

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導ご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾・漁港、空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存するなど、港湾、漁港は極めて重要な社会資本となっております。

特に、北海道は、耕地面積が日本の4分の1を占めているほか、日本一の水揚げ量を誇るなど日本を代表する食料供給基地となっており、北海道の港湾、漁港が農水産品物流の拠点として貢献しております。また、豊かな自然環境などの観光資源が多く存在していることから、クルーズ船旅客数500万人の達成に向けて港湾の受け入れ機能、北海道のインバウンド観光の振興に対応した空港の機能が期待されております。

このため、港湾、漁港、空港の整備・機能強化は、北海道が活力があり魅力のある地域となるために極めて重要であります。

会員企業は、建設投資が減少した状況の中で、工事の施工能力を維持するため、一層の合理化などの経営努力を重ね、各地域の社会資本整備を通じて地域の発展に寄与する役割を果たしていく所存であります。

会員企業の現状を踏まえ、下記に懸案事項を取りまとめましたので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

要 望 事 項

1 平成31年度港湾空港関係予算の確保について

北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存し、港湾、漁港は、極めて重要な社会資本となっております。

地域の基幹産業の競争力強化、農水産物の輸出力の強化、急増するクルーズ船の受け入れ機能の整備、離島の安定的生活の確保、港湾の防災、減災対策などを図るため、港湾、漁港、漁場の整備及び機能強化を推進することが必要と考えております。また、北海道のインバウンド観光の振興に対応した機能の強化、国内外の航空ネットワークの強化を図るため、空港施設の更新・改良を推進することが必要と考えております。

会員企業は、安定的・持続的な経営の下で社会資本整備を通じて地域の発展に貢献する役割を適切に担ってまいりたいと考えており、平成31年度の港湾、漁港、空港関係予算につきまして増額確保をお願いいたします。また、冬期間における事業量の確保及び工事の平準化のため、平成30年度ゼロ国債予算を含む補正予算の早期の編成と執行をお願いいたします。

2 週休2日工事について

建設業における働き方改革を推進するため、週休2日工事の本格的導入に向けて平成30年度から試行工事が実施されており、当協会も港湾空港建設業の健全な発展のため、その実現に向けて取り組みを推進してまいります。

つきましては、実施にあたって課題とされている適正な発注時期及び工期の確保、工事書類の簡素化、設計労務単価の大幅な引き上げをお願いいたします。また、港湾工事特有の海象条件による現場閉所の定義や試行工事で確認された課題について、柔軟な対応策の検討をお願いいたします。

3 総合評価落札方式における提出資料の簡素化について

総合評価方式では、評価項目数に比例して証明資料が増加することから、受注者が提出する入札システム申請時における資料簡素化のため、全ての開発建設部において、技術者及び企業に関する評価項目など毎回共通する資料について、年度初めまたは初回申請時に提出登録を行った以後は、提出を省略することができる制度の検討をお願いいたします。

4 見積活用方式の拡大について

平成28年度12月より運用されている見積活用方式により、現場実態と積算内容に乖離が見られた実重量50tを超え、かつ、製作個数45個以下の大型ブロック製作を始め、矢板式上部工などの積算に効果を得ておりますが、そのほかの工種において、標準積算による工事費と実態工事費が大きく乖離しているものがありますので、これらの工種に対する見積活用方式の拡大をお願いいたします。

5 低入札価格調査基準の引き上げについて

一般競争入札における落札金額が、調査基準価格に近い金額となる傾向にあります。平成29年度に調査基準価格の算定式が見直しされましたが、建設業が適正な利潤を確保し安定的な経営を維持するため、調査基準価格を引き上げるとともに、その設定範囲の上限値9/10を撤廃するようお願いいたします。

以下、他協会の要望事項

(一社)北海道建設業協会 港湾・漁港部会

1. 平成31年度当初予算の増額確保について
2. ゼロ国債の措置について
3. 防災・減災に不可欠な基盤施設の整備について
4. 地域活性化に必要な港湾施設の整備について
5. 地元建設企業への受注機会の確保などについて

(一社)全日本漁港建設協会 北海道支部

1. 平成31年度水産基盤整備事業（漁港漁場整備）予算等の確保について
2. 持続的で安定的な予算の確保について
3. 防災・減災対策の更なる推進について
4. 早期発注及びゆとりある工期の設定について

(一社)日本埋立浚渫協会 北海道支部

1. 港湾関係公共事業予算の確保について
2. 「働き方改革」、「担い手の確保・育成」に向けての取り組み推進
3. 技術提案評価型（S型）またはWTO準拠型工事の確保について

(一社)日本海上起重技術協会 北海道支部

1. 平成31年度港湾関係予算の確保について
2. 地域の守り手である地元会員企業への工事量の確保について
3. 作業船の保有に対する支援について
4. 海上工事における働き方改革と工事発注の改善について

全国浚渫業協会 北海道支部

1. グラブ浚渫工事量の確保・増大
2. 国土交通大臣顕彰を受けた建設技能者の評価について
3. 税制・補助に関する要望

(一社)日本潜水協会 札幌支部

1. 港湾潜水作業にかかる事業量の確保について
2. 港湾潜水技士資格の活用の促進について
3. 潜水土船の担い手育成への支援について
4. 適正な働き方改革の適用について

日本港湾空港建設協会連合会と当協会が北海道開発局と意見交換会を開催

平成30年12月6日（木）ホテルポールスター札幌において日本港湾空港建設協会連合会と当協会の共催で国土交通省北海道開発局と意見交換会を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



北海道開発局



港湾空港部長



林田会長

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長	眞 田 仁
港湾計画課長	松 良 精 一
港湾計画課長補佐	古 屋 武 志
港湾建設課長	平 澤 充 成
港湾建設課長補佐	田 川 人 志
港湾行政課長	根 本 任 宏
港湾行政課港湾管理官	富 家 靖 隆
空港・防災課長	北 原 正 宏
空港・防災課港湾保安全管理官	斉 藤 敦 志
農業水産部	
水産課長	田 中 郁 也
水産課水産企画官	星 道 太

◎日本港湾空港建設協会連合会

会長	林 田 博
専務理事	幸 田 勇 二
技術委員長	大 滝 雅 宣
技術ワーキング委員会委員長	木 地 本 堅 司
技術ワーキング委員会委員	森 隆
技術ワーキング委員会委員	友 歳 巖

◎北海道港湾空港建設協会

会長	宮 崎 英 樹
副会長（技術委員長）	藤 田 幸 洋
副会長	金 子 功
副会長	西 村 幸 浩
技術委員会副委員長	宮 本 義 憲
委員（部会長）	岡 崎 光 信 (日港連技術委員)
委員	高 柳 省 一
委員	手 塚 定 雄
委員	岩 城 儀 人
委員	斎 藤 勝 司
委員	市 来 隆
委員	三 原 一 憲 (日港連技術委員)

要 望 事 項

平素より日港連の活動に深いご理解と温かいご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

当連合会は、「港湾空港建設技術の開発及び向上」と「港湾空港建設業の健全なる発展及び社会的地位の向上」を目的に掲げ、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全国の都道府県協会を結集して1984年（昭和59年）に設立され、以来35年を数えます。

この間、日港連の会員各社は一貫して我が国の経済、産業を支える港湾・空港インフラの整備並びに災害時の復旧・復興に携わるなど建設業の立場から我が国の発展に寄与してまいりました。

現在我が国は急速に進む人口減少社会を迎えており、将来的に生産年齢人口が減少していくため、担い手の確保・育成が喫緊の課題となっています。こうした状況は建設産業においても同様であり、将来の担い手確保のため長時間労働の是正や週休2日の実現など働き方改革を推進するとともに生産性の向上に取り組んでいく必要があります。

全国に所在する私どもの会員企業は、これまで地域の社会資本整備を担ってきており、これからも将来の担い手確保を図りつつ地域社会の発展に貢献してまいりたいと考えております。しかしながら、今後の港湾空港整備に関する事業見通しは必ずしも明確でなく、港湾空港建設業として将来にわたり存続していけるか不安を抱えております。

このような現状を踏まえ、私どもが抱えております当面の懸案事項につきまして、下記のとおり要望しますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1. 港湾関係社会資本の安定的・持続的な整備推進

人口減少社会を迎える中で今後とも持続的な経済成長を実現するためには、国際物流や急増するクルーズ需要、地域の基幹産業の競争力強化に対応した港湾機能の強化

が必要です。また、切迫する巨大地震や激甚化する気象災害に対する防災・減災対策の推進、更には災害被災地の復旧・復興、豊かで暮らしの礎となる地域づくりも着実に進めていく必要があると考えます。また、全国の各々の地域によっては、これから取り組むべきプロジェクトが存在すると思われ、これらの発掘、創出をしていくことが可能ではないかと考えます。これらの事業を安定的・持続的に推進していくことにより、災害時の応急復旧などの地域維持を担う建設企業がその役割を果たし続けることに繋がるものと思われますので、よろしくお願い申し上げます。

2. 港湾空港建設業の健全な発展が可能となる公共調達制度の改善

建設業における担い手を確保していくためには、長時間労働の是正や週休2日の実現など働き方改革を推進するとともに、現場業務の効率化などにより生産性の向上を図っていく必要があります。このため、港湾空港建設業の健全な発展が可能となるよう、以下の項目についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

(1) 建設現場における働き方改革の推進

① 休日の確保

長時間労働の是正、週休2日制の実現を図るため、適正な工期の確保、工事書類の簡素化、設計労務単価の大幅な引き上げを行うこと。

② 休日確保標準型の弾力的な運用

試行中の工事成績評定での加点制度は、週休2日（4週8休）が工期内で100%達成されないと評価されない仕組みとなっている。本制度への取り組み意欲を更に高めるためにも、達成度に若干の許容範囲を設けるなど弾力的な運用を行うこと。

(2) 建設現場における生産性の向上

① 現場管理業務の効率化

・工事書類簡素化の推進：簡素化に係る統一様式

を策定し、試行工事を着実に推進すること。

- ・電子検査の推進：工事完成時の電子検査を推進し紙資料の削減を図ること。
- ・工事書類の二重納品防止：紙資料の提出を求めず電子納品を徹底すること。

② i-Constructionの推進

浚渫工事でのICT活用の円滑化を図るため、講習会を開催するなどICTに対応できる技術者の育成を図ること。

(3) 入札・契約制度の改善

①入札事務手続きの改善

- ・電子入札システム申請時における工事实績等の証明資料添付の省略を徹底すること。
- ・現行の電子入札システムの受付容量 3 MB を拡大すること。

②電子契約システムの円滑な運用

電子契約システムが本格運用されるにあたり、説明会を開催するなど円滑な運用を図ること。

③適切な設計変更

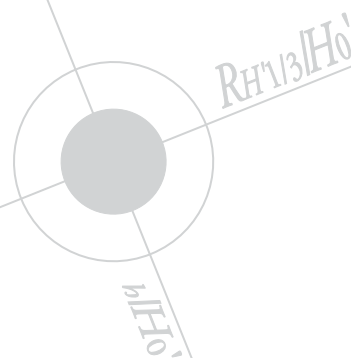
設計変更協議会の確実な開催など設計変更ルール of の適正な運用を図ること。

④低入札価格調査基準の引き上げ

調査基準を引き上げるとともに、その設定範囲（7/10～9/10）の上限値 9/10 を廃止すること。

(4) 公共調達制度の港湾管理者等への普及

建設業の担い手確保に繋がる公共調達制度について港湾管理者等への普及を図ること。



港関係団体連絡会と 北海道開発局担当者が 意見交換会を開催

平成30年11月22日（木）小田ビル会議室において、港関係団体連絡会（岡崎光信会長）は、北海道開発局と平成30年度港湾・空港・漁港工事に係る意見交換会を開催した。

北海道開発局から港湾空港部平澤充成港湾建設課長、斉藤敦志空港・防災港湾保安管理官、農業水産部田中郁也水産課長など6名が出席、港関係団体連絡会から岡崎光信会長、山田悦郎副会長、鈴木定義副会長など港関係7団体から13名が出席して「入札・契約に関する要望」「設計・施工に関する要望」について意見交換会を行った。

主な要望内容は以下のとおり。



北海道開発局 平澤港湾建設課長



港関係団体連絡会 岡崎会長



意見交換状況

主 要 望 内 容

入札・契約に関する要望

1. 入札時の資料提出の簡素化について
2. 配置予定技術者・評価基準に基づいた「自己評価表」の提出について
3. 配置予定技術者
 - 3-1 施工点在型の工事について
 - 3-2 申請時の配置予定技術者について
 - 3-3 若手技術者育成型の試行工事の拡大について
4. 入札説明書及び設計図書等の交付・質問・回答・修正等
工事費内訳書配付試行工事について
5. 特別調査及び見積単価

他機関単価の公表について

6. 競争参加資格・契約締結資格・入札書・技術提案等の提出期間及び落札日時
 - 6-1 競争参加資格提出時の添付資料について
 - 6-2 開札時での評価点開示について
 - 6-3 見積徴収方式の入札について

設計・施工に関する要望

1. 見積活用方式について
2. コンクリートについて
3. 休日作業・週休2日制について
 - 3-1 経費補正
 - 3-2 適正工期
4. その他
夜間工事を含む空港工事について

北海道水産林務部 平成30年度 水産土木工事等 優秀業者表彰

北海道水産林務部は、平成30年度水産土木工事等優秀業者感謝状の贈呈式を12月18日（火）ホテル札幌ガーデンパレスで挙行了。同部所管の平成29年度完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に尽力した工事部門24社（実数23社）、委託部門4社に知事感謝状が手渡された。表彰された優秀業者のうち、水産土木部門では当協会員、㈱福津組、酒井建設㈱、㈱菅原組、小針土建㈱の4社が受賞した。

[水産土木部門受賞]

㈱福津組（古平町）	代表取締役社長 福津 隆範	酒井建設㈱（新ひだか町）	代表取締役 酒井 芳宏
㈱菅原組（函館市）	代表取締役 菅原 修	小針土建㈱（中標津町）	代表取締役社長 小針 武志



（写真提供：北海道水産林務部）

平成30年度 小樽港大規模地震・津波総合防災訓練を開催

平成30年10月28日（日）午前10時30分から、「地震・津波による災害時の港湾機能の早期回復に備え、関係機関などとの連携強化及び防災意識の高揚を図ることを目的」に、北海道開発局及び小樽開発建設部の主催による総合防災訓練が小樽港勝納ふ頭で開催された。当日は天候も心配されたが、直前まで激しく降っていた雨も本番では嘘のように止み、訓練は予定された内容で順調に進行された。本訓練には、小樽市をはじめ小樽警察署、小樽消防署、陸上自衛隊、小樽建設協会、日本埋立て浚渫協会北海道支部、北海道港湾空港建設協会、港湾技術コンサルタント協会及び小樽港湾事務所工事安全連絡協議会等の19機関（主催者含む）から約180人が参加した。

はじめに、橋本 幸小樽開発建設部長が訓練開始を宣言し、続いて、浅輪 宗充国土交通省港湾局官房技術参事官が「訓練では各機関の取組みについてもう一度確認を行い、また、他機関との連携強化を図り、さらなる防災能力向上を」と挨拶した。

訓練は、小樽港沖を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生し、小樽市でも最大震度6弱を観測、直後に大津波警報が発表され最大8mの津波が襲来した後、警

報が解除された状況を想定して訓練が行われた。

訓練内容は、①避難、②漂流者捜索・救助、③港湾巡視、④油防除、⑤航路啓開、⑥被災状況調査、⑦緊急支援物資輸送について、参加者は、順次連携を取りながら所定の訓練を円滑に行った。

訓練終了後、眞田 仁北海道開発局港湾空港部長が「臨場感のある良い訓練が展開されていた。関係機関それぞれの役割と相互連携を確認できたのは有意義で、防災意識の向上にも寄与した」と講評した。



開会宣言をする橋本 幸小樽開発建設部長



航路啓開訓練



緊急支援物資輸送訓練



訓練終了後講評する眞田仁港湾空港部長

（写真提供は北海道開発局 小樽開発建設部）

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」の開催

（公社）日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の港湾関係5団体は、「平成30年度経済と暮らしを支える港づくり全国大会」を10月25日（木）東京・平河町の砂防会館別館で開催し、全国各地から港湾関係者約1,000名が参加しました（北海道港湾空港建設協会関係者は約50名）。

来賓として石井啓一国土交通大臣、大塚高司、塚田一郎国土交通副大臣のほか、望月義夫自民党港湾議員連盟会長をはじめ約90名の議員が駆け付け大会を盛り上げていました。

開会にあたり主催者を代表して、中国訪問中の宗岡正二日本港湾協会会長に代わって、篠田日本港湾協会副会長、林文子全国市長会港湾都市協議会（横浜市長）が挨拶を述べられました。

来賓を代表として石井啓一国土交通大臣が祝辞を述べ

られ、望月義夫港湾海岸防災協議会会長（自民党港湾議員連盟会長）の挨拶がありました。そのあと、下司弘之国土交通省港湾局長が港湾行政の報告として、平成31年度予算要求の重点施策を説明されたほか、地域の代表が港湾整備・振興に関する意見を表明しました。続いて、「港湾整備・振興に関する要望書」を満場一致で決議し、篠田日本港湾協会副会長から塚田一郎国土交通副大臣、工藤彰三国土交通大臣政務官、安達雅志国土交通大臣政務官に要望書が手渡されました。

要 望 項 目

1. 多発する大規模自然災害からの復旧・復興
2. 日本経済の成長力強化
3. 国民の安全・安心確保
4. 地域の活性化と豊で利便性の高い地域社会の実現



全国大会の様子



国土交通大臣の挨拶

災害発生時、広域防災フロートを迅速かつ円滑に派遣！

～室蘭開発建設部管内における大規模災害時を想定し、派遣訓練を実施～

室蘭開発建設部 室蘭港湾事務所

1. はじめに

昨年12月5、6日、広域防災フロート派遣協議会(会長：室蘭開発建設部次長)は、地方公共団体からの派遣要請を想定した、「広域防災フロート」(室蘭開発建設部所有)の派遣に係る2つの訓練として、情報連絡訓練及び机上派遣訓練を実施しました。以下に、実施した2つの訓練の概要を説明いたします。

2. 「広域防災フロート」の諸元、主な役割など

1) 諸元

- ・長さ：80m
- ・幅：24m
- ・高さ：4m
- ・その他：小型船の接岸が可能、また緊急支援物資を格納する貨物室を装備



広域防災フロート

2) 主な役割

- ・平常時：港湾工事の台船等として利用（工事資材の仮置き、作業船の係留等）

- ・災害時：緊急支援物資輸送（燃料油、生活物資）、ヘリポートとしての利用、臨時の小型船（1,000t級）係留施設としての利用

3) 派遣実績

- ・東日本大震災による被災地支援のため、平成23年3月に、岩手県大船渡港、福島県相馬港に広域防災フロートを派遣しました。派遣先では、燃料油（ドラム缶810本）及び生活物資32tが陸揚げされ、被災地に提供されました。



生活物資等の陸揚げ(相馬港)



作業船の係留状況(相馬港)

- ・燃料油等の陸揚後も、相馬港に在港して作業船の係留施設として活躍し、7ヶ月後の10月、室蘭港に帰港しました。

3.「広域防災フロート」の派遣に係る2つの訓練

1) 訓練実施の経緯

- ・本協議会は、6つの公共機関、3つの団体から構成されており、平成24年6月に発足しました。その後、燃料油、生活物資の調達、資機材の準備、関係機関との協議、さらには、担当者が変わっても、広域防災フロートの派遣を迅速、かつ確実にを行うことを目的に、本協議会による訓練を実施しています。

2) 平成30年度 訓練の概要

- ・平成30年9月6日、室蘭開発建設部管内、胆振地方東部を震源とする大地震がありました。こうした状況を踏まえ、「当部管内日高地方東部で震度6強の地震が発生、土砂崩れ等で道路が寸断され浦河町が孤立した」という想定で、以下のように実施しました。

①情報連絡訓練

日 時：平成30年12月5日（水）
13：30～16：00



浦河港 施設点検



浦河港 ー7.5m岸壁点検(広域防災フロート係留場所確認)

場 所：浦河港、広域防災フロート派遣協議会委員（関係機関）の各所在地

内 容：13：30に地震発生後、浦河港の施設点検を浦河港湾事務所職員が実施。その結果等をもとに、緊急支援物資輸送のため、浦河港への派遣決定に係る情報連絡等を関係機関とともに実施。

②机上派遣訓練

日 時：平成30年12月6日（木）

10：00～11：30

場 所：室蘭開発建設部 1階大会議室

内 容：迅速かつ円滑な派遣にあたり、関連法令に係る諸手続き、安全管理等について関係機関が集合し、協議等を実施。



机上派遣訓練の様子

4. おわりに

- ・担当者として、これまでの訓練において書類（回航計画書、船積作業計画書など）に課題などがありましたが、今回の訓練で改善することが出来ました。今後も訓練を通じて改善を図っていききたいと思います。
- ・今年、胆振東部で震度7の大地震が発生しました。こうした地震等が近隣で起こる可能性も考えられるので、常日頃から有事の備えをすることは、ますます重要になっていると感じています。こうした意識を持ちながら、広域防災フロートの被災地派遣について、迅速な対応に心がけたいと思います。
- ・最後に、本協議会委員や関係部署の皆様、訓練へのご協力、ありがとうございました。

我が社の安全衛生管理

ハラダ工業株式会社 安全管理室長 遠藤 重也



1. はじめに



弊社は昭和29年の創業以来、地域と共に歩んでまいりました。

港湾・漁港、道路、河川、農業、水産、治山等幅広い領域にて施工実績がある土木部門、新築から営繕・リフォームまで手掛ける建築部門を持つ「総合建設業」と、地域の骨材供給源たる「砕石業」の二つを主軸とし、重機・運送・造林等の部門と共に事業展開し今日に至っております。

建設業及び砕石業は共に社会資本整備を通じて地域と共生する存在であります。時代の変化に柔軟に対応しつつ引き続き地域と共に歩み、皆様により一層信頼される企業となるべく精進してまいる所存です。



2. 安全衛生基本方針



当社は土木、建築公共工事の施工および砕石生産の事業活動で、当社に働く人々の安全衛生を最優先とし、安全・安心な職場になるように努める。

- ①安全衛生に関する法令を順守し、継続的な安全衛生システムの向上を図る。
- ②リスクアセスメントで災害低減対策を抽出しその活動で災害の撲滅を図る。
- ③定期的に内部安全衛生監査を実施し、安全衛生マネジメントシステムの継続的改善に努める。
- ④当社で働く人々に対して必要な教育・訓練を実施し、労働安全上の義務事項を自覚させる。
- ⑤これらの事を確実に実施するために目標を設定し定期的に見直す。



3. 安全衛生管理計画



2015年に取得した労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）の運用に基づき、過去の労働災害事例や各作業所で報告されるヒヤリハット事例の分析結果などを、各部門で立てた労働安全目標を達成させるた

めの具体的施策に反映させ災害防止対策の有効性を図り継続的改善に努めます。



4. 安全衛生管理活動



①本社安全品質管理本部会議

月に一度、安全衛生委員会を軸に品質・環境の各ISO担当者を加えたメンバーにより、各部門の作業環境に適した安全対策の協議を実施しています。また、災害発生時には迅速に現場検証を実施し、発生原因の特定・再発防止対策を現場担当者とともに検討しグループウェアにより全社員で情報共有を図っています。全国安全および労働衛生週間にあわせて安全パトロールを実施し、他部門担当者からの違った視点と女性社員を参加させることにより、細やかな目線での点検を行っています。



女性社員による安全パトロール

②安全大会

毎年4月の着工期と追込み期を迎える10月に協力会社参加のもと安全大会を開催しています。

4月の大会では神事による安全祈願、社長の訓示、無事故無災害ほか各表彰、安全衛生管理計画の説明、安全宣言を行い、参加者全員で「無事故・無災害」を誓った後、労働基準監督署、警察署、産業医をはじめその年ごとに消防署や中災防など外部機関からの講師を招き安全衛生講習を行います。

10月には総括管理責任者と各部門長から上期総括と今後の留意点についての説明、労働基準監督署、警察署による講話をいただき、気象条件等の悪化で厳しい作業

環境を迎える時期に社員と協力会社が一致団結し「0 災害」への意識を高めています。



安全大会

③交通安全

社用車へのドライブレコーダーの設置、セーフティラリー運動への全員参加と無事故・無違反達成グループへの表彰などの取組みにより、年々交通違反者の減少がみられ効果を得ています。

④店社パトロール

毎月、安全管理部門と各部門代表が個別に行う安全パトロールや、安全管理部門の現場巡回を不定期に行うことで頻度を上げ、本社が作業所の安全管理に積極的に参加しリスクの低減を行っています。



安全パトロール

⑤事業主の取組み

建設工事着工期と追込み期災害防止運動期間中に経営トップによる安全パトロールでの注意喚起、全国安全及び労働衛生週間には役員が各作業所の朝礼に参加し社長メッセージの伝達を行うなどの活動で作業所全員の安全意識の向上を図っています。



朝礼

⑥安全訓練及び教育

事故発生原因の大半がヒューマンエラーによるもので、作業員への安全訓練および教育が重要です。

各作業所で毎月行われている安全訓練・教育がマンネリにならないようビデオなど教材の随時調達、VR（バーチャルリアリティ）事故体験機で事故を仮想体験してもらい、作業員に事故の危険性について実感を持って学んでもらうなどの工夫をしています。



安全教育



5. その他の活動



地域の一員として海岸清掃、河川清掃や稚魚放流など自治体や各公共団体の環境保全活動、交通安全期間の旗の波運動などへの参加はもちろんのこと、平成17年より冬期間市内各所にある砂箱へ当社砕石工場で生産している焼砂を補充する活動を継続して行っています。



6. むすびに



「無事故・無災害」は働くものすべての願いです。毎日の作業を終え、全員が無事笑顔で家族のもとへ帰ることができるよう、日々努力を続けます。

b/H_0

バージアンローダ船からの海上排送状況を写真－2に、陸上での揚土状況を写真－3にそれぞれ示す。



写真－2 海上排送状況

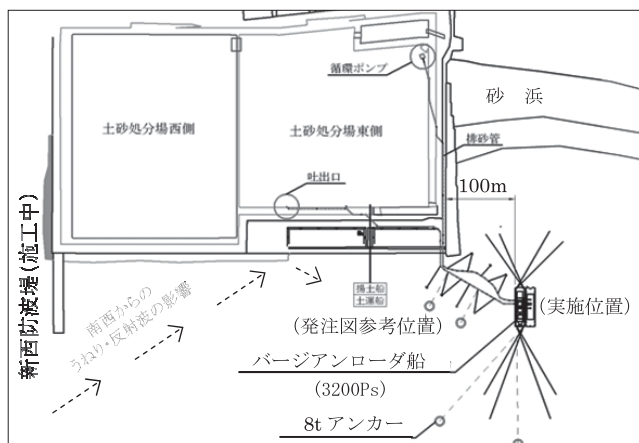


写真－3 陸上揚土状況

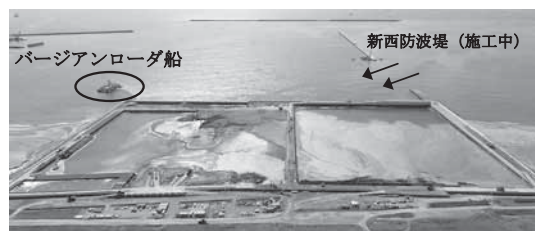
3. バージアンローダ船の配置について

土砂処分場西側に位置する新西防波堤の一部が未施工の状態であり、土砂処分場前面の岸壁は消波機能を有しない直積岸壁で反射波の影響も大きい。そこで、反射波の影響を受けやすい岸壁前面を避け、岸壁から東に約100m移動した砂浜前面に配置した。風・波浪の影響を受けにくい大型のバージアンローダ船（3,200Ps）を採用するとともに、8tの警戒アンカー4基を追加設置して、荒天時に使用できる体制で施工を開始した。

バージアンローダ船の配置計画を図－3に、実際の配置状況を写真－4にそれぞれ示す。



図－3 バージアンローダ船配置計画



写真－4 バージアンローダ船配置状況

4. 揚土作業における余水循環について

揚土方法は、加水によって陸揚げ土砂の体積が増加することに対応し、場内の水を本船側の加水に再利用する余水循環方式を採用している。

循環水の取水ポンプとして14基の水中ポンプ（350Ps/hr）をユニフロート台船上に設置し、処分場内に配置した。（写真－5）



写真－5 循環用取水ポンプ付台船

ポンプが土砂を吸い込むことでポンプに目詰まりを引き起こすことのないように、取水ポンプ付台船周囲に大型土のうにて防砂堤を造成し、揚土した土砂が取水ポンプ周辺に流れ込まない対策を施した。また、現況地盤の土砂についても取水ポンプが吸引しないように台船高さを調整して設置した。（写真－6）



写真－6 取水ポンプ付台船設置状況

5. あとがき

海象条件の厳しい海域でバージアンローダ揚土を実施した工事であったが、本報で紹介した計画を採用して工事を進めることで、施工サイクルを確立し、無事故無災害にて工事を完了させることができた。

私の趣味

『雑感2018』

渡辺建設工業株式会社 渡部 仁志

明けましておめでとうございます。

大変僥越ではございますが、このたび『私の趣味』を担当させていただくことになりました。

唐突というか予めお伝え致しますと、今年43歳になる私自身、人に言えるも言えないも含め“長年楽しんできた趣味”や“最近ハマリしている趣味”は残念ながら御座いません…

ですので、最近の出来事や携わったイベントなどについて感じた雑感をつづらせていただこうと思います。

そのような訳でしてヤマもオチもない駄文では御座いますが、皆さんどうぞ宜しくお願い申し上げます。

皆さんの地域では新卒者などの若者の地元への定着については概ね良好でしょうか？

私の地元であります根室については人口26,000人でここ数年は600人ほど毎年減となっています。その内訳も7割弱の350人ほどが転出による社会動態の減となっています。これら全てが若者の地元離れではありませんが深刻な値となっております。

大学などはなく、しかも高校がH31年度より1校となる根室では、毎年卒業する200人ほどの新卒者に地元企業の魅力を理解してもらうために、他地域同様にインターンシップや企業訪問などを実施しています。近年は少しでも早く地元就職による職業意識を身につけてもらうため、中学生も同様に行っています。

そんな中、私も所属しています根室商工会議所青年部で、小学生にも楽しんで、思い出になる形での職業体験をしてもらおう!!ということで、『キッズワークねむろ』を開催致しました。

各業界の団体や個人などに声掛けしまして、15業種に参加していただきました。お陰さまで屋内外に用意したブースは盛況で、たくさん子ども達が『大工さん』や『お花屋さん』などといった普段はなかなか体験できないことを楽しんでいました。美容師ブースやネイルアートブースなどは同伴している保護者の方が興味津津といった場面も伺えました。

参加した子ども達や保護者からとったアンケートでは次回開催を100%望む結果となり職業体験イベントとして楽しんでいただけたようでした。

今回紹介した小学生対象の職業体験のイベントは若者の地元への定着には直接関係するものではありませんが、“楽しんだ”という思い出を作っておくことが将来につながっていくことと思います。

皆さんの地元でも根室と同様に商工会議所や商工会、その他団体で“まち”



キッズワークねむろポスター

を盛り上げようとするイベントをいろいろ催しており、何らかの形で皆さんも携わっている事と思います。

“まち”に活気がないと魅力も景気も下がり、若者の地元離れの加速につながっていき、さらにそれが“まちの”魅力を落とすことに…

一朝一夕で好転できる特效薬はないと思うので、“まち”を盛り上げるための小さなイベントを積み重ねることの大切さを、このたび子ども達が笑顔で楽しむ姿を見ながら、改めて感じました。

先日カンボジアとタイへ行ってまいりました。

とは言ってもバックパッカーで一人旅などではなく、私の所属しております建設二世会である釧路建親会での海外研修旅行として行かせていただきました。

研修旅行開催のきっかけは、2017年度に釧路建親会が北海道建青会の主管地区を務め、釧路にて全道会員大会を開催させていただきました。それらを終えた際に、釧路建親会の大先輩であり親会の長であります方から、『このような機会でないとなかなか行けないだろう…見聞を広めてこい!!』とありがたい労いのお言葉をいただき、企画させていただきました。

新千歳～バンコク～シュムリアップと出入出入と繰返し、12.5時間かけて到着した現地はちょうど11月の満月の日にある『水祭り』当日ということもあり、現地時間で21:00を過ぎていても街中は大混雑しておりました。私のような滅多に日本から出ない人間は日本語が通じないところで行動をおこすだけで異文化交流としては充分刺激的となります。特に今回は着いて早々にナイトマーケットに行き自由解散となれば尚更です。バス移動中に現地ガイドさんから『お祭中は特にスリに注意してください。私もやられちゃいました。』というご助言もいただいていたのでスリルも満点です。夜中でも30℃近くある



アンコールワット



シュムリアップのパブ

人混みの中を歩き回るのは移動初日としては大変こたえるので、3マンセルで移動しパブストリートの少し外れた立地だけど、白人のお客さんが多いお店をチョイスし、テラス席を陣取りビールを飲みながら街の様子を楽しみました。23:00を過ぎても小さな子ども達がチョロチョロしており、それがバイクに4人乗りしていたり、定員が何名なのか、明らかに人がはみ出ているトゥクトゥクが通り過ぎるのを眺めながら、タイやベトナムの後くらいに“これから”の国なんだろうなあ…と大雑把な感想を抱きながら人口の70%が35歳以下という大変うらやましい元気いっぱいの熱を肌で感じました。

釧路建設業協会の私の所属する委員会で『けんせつ体験フェスタinくしろ』というイベントを開催す

ることになりました。

担い手確保のための活動として、“全く建設関連に係わっていない一般の方々に今の建設業をPRするためにはどうしたら良いか？”を考えている中で、子ども達に体験型のイベントを催し、同行した保護者に建設業をPRしよう！と企画されました。（子どもを誘い込み親を友釣り…なんてことではありません!! 一般的な広報戦略です。）

初めてのイベントという事もあり、手探りでの企画立案ではありましたが、釧路開建や釧路総振、釧路市のご後援やたくさんの方々のご協賛やご協力をいただき、10ブースを用意しての開催になりました。

子ども達が楽しめるバックホウの操作やタイヤショベル乗車体験やVRによる土木技術の紹介、国や道の事業を紹介するパネル展などをスタンプラリー形式にすることで、多くのブースを子どもと共に保護者の方が巡回できるようにし、少しでも今の建設工事について理解していただき、また、子ども達にはこの体験が思い出となり建設業が少しでも身近に感じてもらえれば、あわよくば将来の進学や就職を考える際に建設業が選択の一つになることができればと考えました。

当初の子どもの入場者数は200名ほどを想定していましたが、釧路市内の全小学生にチラシを配布



けんせつ体験フェスタinくしろ

したためか、はるかに上回る500名以上の子どもたちが訪れ、“ミニバックホウによるスーパーボールすくい”など数ブースは30分以上の待ち時間となり大盛況となりました。

重機体験やGPS測量機械による宝探しなども大人気となっており、楽しむと勤めるは違うのか、成長の過程のどこで将来の職業選択から建設業が外れてしまうのか、もっと検討の余地があるな…と感じられました。

保護者を入れて延べ約1,500人の集客となり、今後へと継続していくなかで、建設PRイベントとして確かに浸透していくものと思います。今回お手伝いいただいたスタッフの方たちからも次回をより良くするための意見が多数挙げられており、同じく手応えを感じているようでした。

『子どものときに母で行ったイベントが忘れられなくて建設業に進むことを決めました!』なんて子が面接に来る事なんかあったらと、早くも夢見がちな想像をしているところです。

地元における様々な活動の大切さの再認識。というような皆さまには釈迦に説法なお話しながら始まりまして、海外研修についてはカンボジアに到着した日のみのこと…翌日行ったアンコールワットは写真だけで済ましてしまい。タイについては何もなし…最後のけんせつ体験フェスタについては夢見がちな想像…という経営者としては如何なものかという締めとなってしまいました。

雑多な雑感を自由に紹介させていただきましたが、最後までお読みいただきました皆さまには本当にヤマもオチもなく失礼いたしました。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

稚内港末広地区クルーズ船等 対応施設について

北海道開発局 稚内開発建設部

はじめに

日本最北の重要港湾である稚内港は、道北の流通拠点として、また、沿岸・沖合漁業の基地、さらには利尻島・礼文島及びロシア連邦サハリン州とを結ぶ交通結節点として重要な役割を担っています。近年は、サハリンプロジェクトの関連資材や船舶の中継港、さらに外国からの風力発電資材や生鮮魚介類の輸入港として利用されるなど、益々その役割の重要性が増しているところです。

事業概要

稚内港末広埠頭には水深-12mの岸壁がありますが、岸壁の延長が240mしかないため、3万トンを超える大型クルーズ船は接岸することが出来ず、大型クルーズ船の寄港要請に対しては、これの受け入れが出来ない状況となっていました。

また、稚内港にはサハリンプロジェクト関連の調査船・作業船が乗組員の交代や物資補給などに多く寄港していますが、大型船の複数隻の接岸が困難な状況でした。

以上のような問題を抱えていた稚内港でしたが、地元住民等の強い要望が実り、平成28年度から、最大12万トン級の大型クルーズ客船の受入や、係留時の安全性や効率性の向上を目的とする整備に着手しました。整備は、末広埠頭の既存岸壁を有効に活用する方針の下で行い、既存岸壁上に係船柱の新設、舗装コンクリートの打ち替えを行い、岸壁の沖側にクルーズ船等の係留ロープをとるための係船柱（ビット）2基及び橋台を整備しました。平成30年7月と11月には、



係船柱（ビット）整備状況（H30.11.26）

既設岸壁と各係船柱間を渡るための3基の連絡橋の設置が完了しました。

本施設の整備により、大型クルーズ船の接岸が可能となるのみならず、サハリンプロジェクト関連の調査船や作業船の複数船の係留が可能となり、稚内港の利用機会の拡大が期待されます。

供用式典

平成30年7月27日（金）に、初めて本施設を利用するクルーズ船「飛鳥Ⅱ」の寄港に合わせ、稚内市及び北海道開発局稚内開発建設部が主催者となり、供用式典を開催しました。式典には約40名が出席し、稚内市の工藤市長と、稚内開発建設部の和田部長が式辞を述べ、国土交通省北海道局成瀬港政課長の代読により、北海道局長の挨拶が行われました。これを受けて、来賓である武部衆議院議員よりご祝辞をいただきました。

その後、富澤稚内港湾事務所長から「事業概要」の報告があり、最後に来賓や関係者によるテープカットが執り行われました。

おわりに

本施設は道北地域で初めて12万トン級の大型クルーズ船の入港が可能となり、日本の最北端に新たなクルーズ周遊ルートの拠点が生まれることが期待されています。



供用式典 テープカット状況（H30.7.27）

釧路港国際物流ターミナル 完成式開催

国際バルク戦略港湾第一号となる 穀物の輸入拠点が完成

港湾管理者である釧路市、荷役機械の整備主体で埠頭運営事業者の釧路西港開発埠頭株式会社、岸壁や泊地の整備主体である国土交通省北海道開発局釧路開発建設部の共催により、11月23日（金）午前11時30分から、釧路市観光国際交流センターで、関係者による完成式を開催した。

飼料工場や飼料原料の保管サイロが集積する釧路港西港区第2埠頭地区において、とうもろこし等の飼料原料

を満載にした大型船の入港を可能とし、大型船での大量一括輸送による効率的な輸送体系を構築し、海上輸送コストの削減を目的に、平成26年度より岸壁（水深14m）などの整備に着手し、平成30年3月には岸壁本体が、11月に埠頭運営事業者による荷役機械が完成したことを受け、完成式を執り行った。

完成式には、塚田一郎国土交通副大臣、前国土交通大臣の太田昭宏衆議院議員、伊東良孝衆議院議員、鈴木貴



釧路西港第2埠頭

子防衛大臣政務官、繁本護衆議院議員をはじめ、飼料穀物の主要生産国から在札幌米国総領事館のロバート・ピケット領事や地元農業関係者など、多方面より約150人が出席した。

最初に主催者を代表して、蝦名大也釧路市長より「穀物の輸入拠点の完成により、物流コストの低減などの整備効果は、東北海道だけではなく、広く全国へと波及する。」と式辞を述べ、塚田副大臣より「釧路港をファーストポートとして、パナマックス船満載による大量一括輸送が実現し、安定的で効率的な飼料穀物の供給体制が構築される。これを第一歩として我が国全体としての安定的かつ効率的な海上バルク輸送網の形成に全力で取り組む。」と挨拶した。

これに対し、来賓を代表して国会議員の方々が祝辞において、「釧路は、世界の北海道として伸びゆく地域であり日本の台所。世界は物流の変化の渦中、バルクの完成で、釧路が益々発展することに期待」（太田昭宏衆議院議員）、「繁本先生とともにバルク政策を進めてきた。本日は非常にうれしい。バルク完成により道東、北海道の皆さんが良くなることを祈念」（伊東良孝衆議院議員）、「市民の総意の元でこの整備が行われた。完成したバルクを我々が知恵を出して、地域を発展させることが重要」（鈴木貴子防衛大臣政務官）、「今日は感無量。7.3万の署名が集まった国家プロジェクトは初めて

であり、本来の国家プロジェクトのあるべき姿」（繁本護衆議院議員）と述べた。

その後、飯田釧路港事務所長より事業概要報告を行うとともに、畜産・酪農家や飼料穀物輸送者を代表して、安田忠孝全国農業協同組合連合会常務理事が「釧路港が北海道はもとより、日本の農業にとって益々重要な役割を果たす。」、更に飼料穀物の生産者を代表し、アメリカ穀物協会よりビデオレターが届けられ「釧路港は、アメリカにとっても重要なみなと。」と釧路港への期待感を示しました。

最後に来賓や関係者によるテープカットを行い、完成を祝った。



テープカット



主催者あいさつ



来賓祝辞

函館港若松地区クルーズ船岸壁 暫定供用開始

北海道開発局 函館開発建設部

函館開発建設部は、平成28年8月に閣議決定した「未来への投資を実現する経済対策」において掲げられた大型クルーズ船の受入環境改善を目的とし、若松地区クルーズ船岸壁の整備を平成29年11月から進めており、平成30年10月1日に延長360m（11万トン級クルーズ船対応）のうち225mが完成、4万トン級までのクルーズ船の寄港が可能となり、平成30年度に寄港したクルーズ船のうち約3割が本施設に係留可能となった。

10月6日、管理者である函館市主催のクルーズ船岸壁一般公開が開催され、函館市や函館開発建設部の職員は、

クルーズ船が寄港した時のイメージ図や、街中にクルーズ船岸壁を整備したことによる経済効果などを説明し、一般公開に参加した市民から「この施設が利用されれば、朝市などの観光地も近いので、非常にいい施設だと思う」「1日でも早く完成させて、11万トン級のクルーズ船も係留できるようにしてほしい」など、本施設への関心の高さが伺えた。

函館開発建設部は、1日でも早い本格供用を目指し、今後も整備を進めていく考えだ。



延長225m整備完了状況



函館朝市からの眺望（完成後イメージ）



10月6日 岸壁一般公開状況

イベント

稚内港湾事務所工事安全連絡協議会が「女性チームによる現場点検」を実施

稚内開発建設部 稚内港湾事務所

8月2日（木）、稚内開発建設部稚内港湾事務所工事安全連絡協議会（稚内港湾事務所及び7企業、1共同企業体が参加）では、男女ともに働きやすい建設現場の実現に向けて、会員組織の女性職員9名で編成した特別チームによる工事現場の点検を行った。

本取り組みは昨年度に引き続き2回目の開催で、今回は、稚内港の末広地区東岸壁と北防波堤ドームの2現場を対象に、いわゆる3K（きつい・汚い・危険）を主なチェック項目として点検した後、女性目線で検証した課

題に関する意見交換会を実施した。

女性チームからは、「4週8休の試行はモチベーションアップに寄与する」、「現場事務所・休憩所・トイレが清潔だった」、「高所作業箇所における安全設備が整っていた」などの評価があった一方で、「休憩所内の仕切りが必要」、「フルハーネス型の安全帯は女性には重たい」といった課題等も指摘され、本取り組みの継続実施の重要性を確認した。



稚内港末広地区東岸壁の現場点検



現場事務所周辺の点検



稚内港北防波堤ドームの現場点検



北防波堤ドームでの意見交換会

第8回苫小牧漁港ホッキまつり

平成30年10月21日、苫小牧港西港漁港区において「第8回苫小牧漁港ホッキまつり」（実行委員会主催）が開催された。

澄みきった青空のもと、午前9時に花火が打ち上げられ開会式が行われた。ホッキまつりの目玉であるホッキ貝の販売（1袋7個入り、1人1袋1000円）は9時から開始されたが、販売前から300m以上の長蛇の列ができ、ホッキまつりの関係者は先着2000名まで整理券を配布して販売したが2時間弱で2000袋全てが完売した。

会場では、海産物の販売やホッキ早むき競争、鮭の棒引き、前浜ビンゴ大会など楽しい催しものも行われ、飲食ブースではホッキ入り焼きそばやカレー、ホッキのパター焼きなどが用意され屋台前には長い列が絶え間なく続いていた。

早朝10℃前後の気温も風のない晴天に恵まれたことで過去最多の約3万7000人が来場し、会場は大勢の市民や観光客で賑わいを見せていた。



賑わいを見せるホッキまつり会場



ホッキ貝販売に長蛇の列



手際のよいホッキ貝の販売状況

大型客船等寄港

豪華客船「飛鳥Ⅱ」苫小牧港寄港

平成30年10月14日朝9時過ぎ、気温16度と肌寒い苫小牧港西港区入船ふ頭岸壁に豪華客船「飛鳥Ⅱ」（総トン数50,142トン、全長241m、乗客定員数872人）が着岸した。

着岸時には、カラーガードチーム「Let's」の演舞で「飛鳥Ⅱ」をお迎えし、歓迎セレモニーでは苫小牧港クルーズ振興協議会会長である岩倉博文苫小牧市長から「飛鳥Ⅱ」の船長らや乗船客の皆様へ「苫小牧、北海道の秋を満喫してください」と挨拶があり、苫小牧市のマスコッ

トキャラクターの「とまチョップ」からはウエルカムポーズで歓迎した。

セレモニーの最後に、船長らに花束と記念品が贈られ、船長からも岩倉市長に記念品が贈られ歓迎セレモニーを終了した。

「飛鳥Ⅱ」は、和光中学校・青翔中学校吹奏楽部合同演奏に見送られ16時ごろ入船ふ頭から次の寄港地、岩手県大船渡港へ向けて出航した。



豪華客船「飛鳥Ⅱ」苫小牧港西港区に寄港



岩倉市長の歓迎挨拶



「とまチョップ」のウエルカムポーズ

大型客船 「MSCスプレنديダ」が 室蘭港に寄港

イタリアの大型客船MSCスプレنديダ（総トン数137,936t 全長333.3m）が11月1日午前7時半、室蘭港崎守ふ頭に接岸した。テレビショッピングのジャパネットホールディングスのチャータークルーズ第2弾で、10月23日に続いての寄港。MSCスプレنديダとしては

今年3回目の室蘭となった。

10日間の日本一周旅行で、日本人を中心に観光客約3,400人が乗船している。早速、市内観光や札幌や西胆振のオプションツアーに向かった。午後5時に就航する予定。

（室蘭民報より抜粋）



崎守ふ頭に接岸したMSCスプレنديダ



青い海と空に映えた白い船体がとてもきれいです



威容ある船体です

◎業界だより◎

◎会員代表の者の交代

●岩倉建設(株)

代表取締役会長 宮崎 英樹

代表取締役社長 鈴木 泰至

●勇建設(株)

代表取締役会長 坂 敏弘

代表取締役社長 坂 昭弘

◎本社移転のお知らせ

道南綜合土建(株)

代表取締役社長 道見 みちる

新住所 〒059-0905

白老郡白老町大町 1 丁目10番 8 号

TEL 0144-82-2289

FAX 0144-82-2443

◎広報委員会だより◎

平成31年 1 月現在の広報委員会は次表のとおりです。

委員長	金子 功	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
(部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
(副部会長)	大前 豊	五洋建設(株)
	荒井 直人	東亜建設工業(株)
	石島 隆司	近藤工業(株)
	高田 稔年	あおみ建設(株)
	千葉 不二夫	勇建設(株)
	毛利 照男	釧石工業(株)
	森 信幸	(株)不動テトラ
	渡辺 修司	(株)菅原組
	渡部 優	菱中建設(株)

※広報委員会からのお知らせ

会報「北のみなと」の編集・刊行基準第5条(10) 当協会会員からの寄稿記事

ア 新造船(機械・装置含む)の紹介

イ 注目される工事の着工、完成施設の紹介

ウ 工事現場の紹介

エ 各地域の技術研究会・イメージアップ推進事業などの紹介をおまちしております。



ほっき水揚げ状況



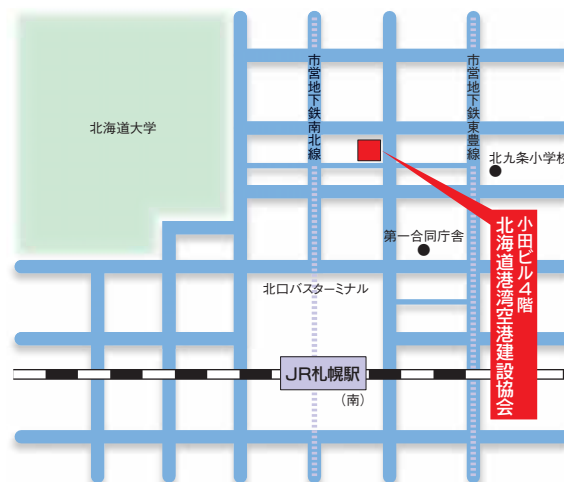
おおご水揚げ状況



畜養施設利用状況(なまこ)

〔写真提供：稚内開発建設部〕

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.96

発行年月 平成31年1月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 東 志郎
 印刷 (株)須田製版